計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	8	自立した生活を送ることができる	関係課	障がい福祉課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
1	障がい福祉サービスの充実	5	1	日常生活支援の充実	B	障害者総合支援法に基づくサービスの充実 地域生活支援事業の充実 レスパイトケア事業の充実	障害者総合支援法に基づくサービスの利用者数は年々増加している。レスパイトケア事業では、3事業所で医療的ケアが必要な市民の受け入れを行ったことで重症心身障害児・者と、介護する家族の精神的及び身体的な負担を軽減することができた。
			2	地域で自立した生活の促進	A	おうちに帰ろうプロジェクトの推進 精神障がい者にも対応した包括システム推進	対象医療機関を２医療機関とし、退院促進は継続しながら、退院後の定着支援についても協議を行い、安定して地域で暮らせる体制整備を行った。障害者施策推進協議会の相談支援部会精神ワーキングチームにおいて、包括システムについての協議を行い、現状を共有した。
			3	居住の場の確保	A	グループホームの充実 入居支援の充実	１０名定員の新しいグループホームができたため、待機者が入居することができた。 （新たに入居を希望する人がいるため、待機者数は変わらない。）
			4	地域生活拠点等の整備の推進	B	関係機関との連携と情報共有の充実 緊急時連絡体制の充実 短期入所先の確保	障がい者基幹相談支援センターを中心に地域生活拠点等の整備を行った。緊急時の連絡体制、受け入れ施設２箇所を登録した。

No.	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	「何が利用できるのか分からない」値の改善	33.7%（H29）	－	－				20%以下（R7）
KSF	社会的入院患者の退院	0人/年（R1）	2人/年（R2）	3人/年（R3）				1人以上/年（R7）
KSF	今すぐ利用を希望している障がい者のグループホーム待機者なし	5人（R2.12）	2人（R3.12）	2人（R4.12）				0人（R７）
KSF	緊急時未対応者	0人（R1）	0人（R2）	0人（R3）				0人（R７）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	アンケート調査「自宅・グループホームで暮らしたい」人の割合	70.9%（H29）	－	－				80.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

障がい者の相談支援体制についての取組はおおむね順調に進んでいる。相談件数は今後も増加が見込まれ、対象者が支援を受けるための効率的な制度利用ができるよう、関係機関で連携・情報共有を行う。

計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	8	自立した生活を送ることができる	関係課	障がい福祉課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	相談体制の充実	4	1	総合的な相談支援体制の強化	B	障がい者基幹相談支援センターの充実 相談支援部会の充実 様々な関係機関との連携と情報共有	障がい者基幹相談支援センターが主体となり、部会を開催することができた。市内の障がい福祉サービス事業者や相談支援事業所、学校関係者とも、障害者施策推進協議会専門部会のワーキングチームで情報共有を行い、連携の推進を図った。
			2	自己決定のための配慮した情報提供の推進	A	障がい特性に配慮した情報提供の充実 意思疎通支援事業の充実 補装具、日常生活用具の利用促進	日常生活用具の点字ディスプレイ、視覚障害者用拡大読書器、PCソフトなどの情報通信支援用具の給付を受けることで、生活上の障がいが軽減され、日常生活が送りやすくなった。医療機関等の関係機関に顔の見える透明マスクとコミュニケーション支援ボードの配布を行ったことで、障がいのある人のコミュニケーションがとりやすくなり、互いの理解が進み、障がい者の自己決定につながった。
			3	障がい者の権利擁護の推進（差別解消、虐待、権利擁護・成年後見制度）	B	障がい者虐待の防止への取り組みの推進 障がい者の権利擁護の協議の場の充実 成年後見制度利用の促進	R4年度2件の障がい者虐待通報を受け、対応した。担当課での対応で解決したため、紛争解決のための障害者差別解消支援協議会での協議には至らなかったが、報告をすることで、関係者に現状を把握していただき、事案発生時の備えとなった。成年後見制度については、後見利用支援、報酬援助ともに法人後見を行う事業者とも連携を図るとともに、事業実施をし、後見人等の報酬を保障することが制度の促進となっている。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	相談支援部会を年３回実施する	3回（R1）	３回（R2）	３回（R3）				3回以上（R7）
KSF	「何が利用できるか分からない」値の改善	33.7%（H29）	—	–				20%以下（R7）
KSF	障害者施策推進協議会権利擁護部会での協議	年１回 R1	年１回 R2	年１回 R3				年１回以上（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	「どこでどんな相談ができるかわからない」人の減少	23.5%（H29）	—	—				10.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

相談体制について市内事業所等との連携は順調に実施できたので、継続して実施し、支援を深めたい。障がい特性に配慮した情報提供については、コロナ禍によるマスク着用で口元が見えないなど、聴覚障がい者の情報保障に課題があり、コミュニケーションに対する配慮について普及啓発の推進を要する。

計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	8	自立した生活を送ることができる	関係課	障がい福祉課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	雇用・就労支援の充実	4	1	障がい者の就労機会の充実	A	障がい者就労支援センター事業の充実 就労移行・継続・定着等支援事業の利用促進 特別支援学校卒業生への進路支援 障がい者就職説明会の開催 就労に関する情報提供の充実	障がい者就労支援センターでは相談件数が増加した。内容は、関係機関や訓練施設への紹介、支援と定着支援が多く、企業訪問等を頻繁に実施することで、関係性を深め、社会資源の拡大につながった。特別支援学校との進路連絡会や障害者施策推進協議会相談支援部会ワーキングチームと他機関との連携を図り、追跡調査を実施し、支援から漏れていた障がい者がいないことを確認できた。
			2	障がい者の雇用拡大の推進	B	民間企業への啓発 広域的な就労支援ネットワークの充実 障害者優先調達の推進	障がい者就労支援センターにおいて、企業人事担当者との面接等を実施した。優先調達法の推進においても、障がい者施設からの物品等の調達実績が、令和元年度約240万円、令和2年度約500万円、令和3年度約635万円と伸びており、新型コロナ感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、令和4年度も前年度以上に進めることができた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	就労支援センターの相談件数	538人/年（R1）	2248人/年（R2）	2333人/年（R3）				1,087人/年（R7）
KSF	就労支援センター登録者の就労者数の増加	133人（R1）	159人（R2）	164人（R3）				266人（R7）

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KPI	就労支援センター登録者の一般就労と福祉的就労者数の増加	延べ182人（R1）	延べ195人（R2）	延べ203人（R3）				延べ364人（R7）

課題及び次年度の方向性

就労に関する相談者数は着実に伸びている。個別の相談は充実したが、民間企業への啓発や就職先の拡大については、その時の社会的な環境、景気等にも左右される課題であるため、協議の場で支援の方法等検討したい。

計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	9	ともに生き、ともに支えあう	関係課	障がい福祉課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
1	意識啓発の充実	3	1	あいサポート運動の推進	B	あいサポーター研修の実施 企業認定におけるあいサポーター研修 （差別解消法の普及啓発）	昨年度はコロナ禍ということもあり、研修などの開催が困難であったが、今年度は感染対策に取り組みながら、スケジュール通りに研修を進められた。
			2	手話の理解及び普及	B	手話に関する講演会の実施 手話体験講座 手話を学ぶための福祉教育の実施 手話言語条例の推進（R4）	昨年度はコロナ禍ということもあり、研修などの開催が困難であったが、今年度は感染対策に取り組みながら、スケジュール通りに、講演会、講座、福祉教育を進められている。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	あいサポーター数	6,762人（R1）	7,111人（R2）	7,864人（R3）				12,397人（R7）
KSF	手話体験講座の受講者数	72名(R1)	16名（R2）	81人（R3）				335名（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	障害者差別解消法について知っている	30.9%（H29）	27%（R2）	－				50.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

障がいに関する正しい知識を広め、理解を深められるようあいサポート運動や手話の講座を実施しているが、それらについて知らない人もまだ多いため、周知を強化しながら継続的に実施し、障がいのある人が暮らしやすい社会の普及・啓発に努める。

計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	9	ともに生き、ともに支えあう	関係課	障がい福祉課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	交流の促進	4	1	障がいのある人との交流	A	あいサポート運動の普及・啓発 富士見市手話言語条例の推進	市制施行50周年記念事業としてあいサポートイベントを実施。300人を超える来場者があり、手話狂言の公演を開催して、聞こえる人も聞こえない人も楽しめる芸術鑑賞の機会とするとともに手話の普及啓発を促進した。併せて、福祉事業所や特別支援学校等の手作り品を展示・販売し、障がいのある人への理解を深め、あいサポート運動の普及・啓発を進めることができた。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	あいサポイベントの実施	1回 （R2）	1回 （R3）	1回 （R4）				継続 （R7）

No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	当事者参画の推進	B	富士見市障害者施策推進協議会の充実 富士見市障害者施策推進協議会における部会活動の充実 障がい者の文化芸術機会の推進	協議会については、身体障がい、視覚障がい、聴覚障がいの当事者委員が出席し、障がい福祉に関わる事業所の代表者とともに、共生社会のまちづくりについて活発な意見交換がなされた。障がい当事者が直面する現実的課題を直視しつつ、問題解決や施策の充実に向けた議論を行った。 市制施行50周年記念事業として手話狂言の公演を開催し、障がい者の文化芸術機会を推進することができた。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	当事者委員が参画する会議・事業の開催回数	6回 （R2）	6回 （R3）	6回 （R４）				７回 （R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	障がいのある人と交流（啓発イベントやボランティアに参加）したことがある人の割合	23.7% （R2）	43.6% （R3）	－				30.2%（R7）

課題及び次年度の方向性

障がい者差別の解消については、障がいのある人と障がいのない人との直接の交流の場をつくることを通して、障がいへの理解を深め、障がいのある人に適切な配慮ができる人が増えるものと認識している。このため、新型コロナウィルス感染症の感染対策を講じつつ、引き続き交流の機会の促進に努め、対面での交流や対面会議が困難な場合は、状況に合わせてオンライン等での開催が可能となるように努める。

計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	9	ともに生き、ともに支えあう	関係課	障がい福祉課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	暮らしやすい環境整備	4	1	施設などのバリアフリーの推進	B	多目的トイレなどの整備	ユニバーサルシート設置の多目的トイレは十分なスペースが必要であり、建設年が古い施設に整備することは困難であるため、現状の5ヶ所のみとなる。びん沼自然公園の整備では、ユニバーサルシートを備えた多目的トイレの設置を推進した。
			2	情報提供環境の充実	A	電話リレーサービス遠隔手話通訳サービスの充実 音訳サービスの充実 点訳サービスの充実	遠隔手話通訳サービスについては、障がい福祉課、社協、障がい者基幹相談支援センターでタブレットを保有し、聴覚障がい者が必要とするときにサービスを提供することができた。視覚障がい者への支援としては、市の情報について音訳CDを作成したり、市民宛て発送物について、障がい福祉課内の点字プリンターを活用するなどして、情報提供のバリアフリー化を促進することができた。
			3	防災・防犯体制の強化	B	ヘルプカード・災害時援助用バンダナの配布 災害時障がい別対応マニュアルの作成 避難行動要援護者登録	ヘルプカードは、窓口・広報・市HPで周知し、配布済み2,424枚のところ、令和4年4月から12月末まで276枚の追加配布、災害時援助用バンダナは配布済み126枚のところ、令和4年4月から12月末まで22枚の追加配布となっている。障害者施策推進協議会の専門部会で防災について関係部署職員を交えて意見交換し、令和4年度中に障がい者向け防災啓発チラシを作成予定。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	多目的トイレ等の普及の推進	5ヶ所 (R1)	5ヶ所 (R2)	5ヶ所 (R３)				6ヶ所 (R7)
KSF	タブレットの普及	19台 (R1)	4台 (R2)	136台 (R３)				25台 (R7)
KSF	災害時に助けてくれる人がいない	37.1% (R1)	40.5% (R2)	40.5% (R2)				18.0% (R7)

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	「災害時、避難所の設備や必要な支援が受けられるかどうかについて不安に感じる割合	29.4% いつ時点か	31.0% (R2)	31.0% (R2)				15.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

タブレットにおける遠隔手話通訳サービスについては、個人情報の観点から、会話の内容が聞こえることのないようマイク付きヘッドフォンが必要なため経費を考慮する必要がある。
防災・防犯体制の強化については、障害者施策推進協議会権利擁護・コミュニケーション部会で協議を進め、災害への備えの意識づけとする「防災啓発チラシ」を令和4年度に作成するが、令和５年度については、「災害時障がい別対応マニュアル」の作成に向けて同部会において協議を進め、災害のリスクの減少に努めるとともにKSFを目標値に近づける。
多目的トイレについては、令和5年4月1日開園予定のびん沼自然公園に１室設置される。

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる	関係課	交流センター、保育課、子ども未来応援センター、健康増進センター、産業経済課、農業振興課、学校教育課、資料館、学校給食センター、公民館
No.	**基本施策**	**進捗**	**No.**	**取組**	**進捗**	**具体的な取組**		**R4年度の成果及び効果（見込）**	
1	健康的な食生活の推進	3	1	「食生活からの健康づくり」の推進	B	食育教室等の実施 特定保健指導（栄養）の実施 食生活に関する情報発信		乳幼児から高齢者を対象とした食育教室等の事業を感染症対策を講じつつ、少人数で実施するなど縮小して再開した。一部、調理実習も再開したが参加人数に制限があるため、後日、動画の配信を行うなど、多くの市民に情報発信できるよう工夫した。参加者アンケートからは満足度の高さが伺え、市民への健康的な食生活の普及啓発につながった。	
			KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
				食育教室の実施	12回（R1）	6回（R2）	7回（R3）				継続
			2	地域における食育活動の推進	B	地域における食育活動支援 食生活改善推進員の養成・活動支援		昨年度中止をしていた食生活改善推進員による健康づくり料理講習会を、感染症対策を講じて再開した。また引き続き、食生活改善推進員の食育活動の支援として、広報や公共施設にレシピを掲載（掲示）し（4回×８ヶ所）、市民への健康的な食事の普及啓発につながった。また、６月の食育月間には、中央図書館において野菜をテーマとした食育展示会を実施し、パネル展示やレシピ配布等を通じて、多くの市民に対し食育に関する普及啓発ができた。 子ども食堂については、活動中の６団体に対して支援を引き続き行い、子ども食堂の継続につながった。	
			KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
				地域における食育活動の支援回数	57回（R1）	53回（R2）	47回（R3）				67回（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	バランスのよい食事をしている人の割合	56.7%（R2）	—	—				70%（R7）

課題及び次年度の方向性

引き続き感染対策を講じつつ、広く食育の推進を図るためにも対面形式とICT等を活用したハイブリット型での食育推進を進めていく。
また感染状況を見つつ、制限の緩和を検討しながらウィズコロナを意識した事業実施を目指したい。
地域における食育活動については各団体との連携が不可欠であるが、会員の高齢化により会員数が減少している団体もあることから、新たな会員を養成するなど、引き続き各団体との連携を深めながら食育活動をすすめていく必要がある。
健康的な食生活についての普及啓発活動をすすめるため、ICTの活用のみならず、各世代に合った方法で情報発信していく必要があるため、様々な手法を検討していく必要がある。

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる	関係課	シティプロモーション課、文化・スポーツ振興課、保育課、子ども未来応援センター、健康増進センター、都市計画課、学校教育課、公民館
No.	**基本施策**	**進捗**	**No.**	**取組**	**進捗**	**具体的な取組**			**R4年度の成果及び効果（見込）**
2	運動習慣の推進	3	1	運動機会の提供	B	ヘルシーウォークの実施 健康マイレージの実施 各種イベント等の情報発信			規模を縮小し3年ぶりにヘルシーウォークを開催し、305人の参加があった。また、健康マイレージ事業においては、参加者数が3,138名（令和4年11月末現在）と昨年度末より564名増加した。また市制施行50周年記念事業である謎解きヒストリーツアーと連携し新たな運動機会の創出に寄与した。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	健康マイレージの参加者数	1,663人（R1）	2,336人（R2）	2,771人（R3）				3,700人（R7）

2	健康づくりのための運動の推進	B	健康づくりのための運動教室の実施 特定保健指導（運動）の実施 健康づくりのための情報発信					乳幼児から高齢者を対象とした運動等の事業を感染症予防対策を講じて再開し、コロナ禍において運動機会の創出に寄与した。また、特定保健指導においては、引き続き、希望する参加者に総合体育館ジム利用券（８回分）または健康マイレージの歩数計のいずれかを配布し、運動習慣づくりを推進した。さらには、ノルディックウォーキング用ポールの貸出事業を開始したほか、貸出用ポールを使用したノルディックウォーキング体験会を市内5会場で開催し、個人の体力に応じた運動習慣の定着を推進する予定である。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	運動教室の実施	10回（R1）	6回（R2）	8回（R3）				継続

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KPI	運動習慣がある人の割合	20～64歳男性 20.8% 20～64歳女性 17.4% 65歳以上男性 32.4% 65歳以上女性 26.6% （R2）	―	―				32.0% 35.0% 60.0% 50.0% （R７）

課題及び次年度の方向性

コロナ禍の影響により減少した運動習慣を回復させるためにはさらなる市民の健康・運動意識の増大を図りたい。引き続き、制限のある状況下においても市民が継続的に運動をできる機会や運動に関する情報を提供していく必要がある。

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる	関係課	保険年金課、保育課、子ども未来応援センター、福祉政策課、高齢者福祉課、障がい福祉課、健康増進センター、学校教育課、公民館

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	健康の自己管理の推進	4	1	健康の自己管理の普及啓発	B	各種健診の実施 健康教育・健康相談の実施	感染症対策を講じつつ乳幼児から高齢者それぞれの健康状態や生活習慣に合わせた健診、健康教育や健康相談を実施し、疾病の予防や早期発見につなぐことができた。
			2	かかりつけ医に関する普及啓発	A	医師会と連携した普及啓発 健康教育・健康相談の実施	新型コロナウイルス感染症や、ワクチン接種について相談があったケースについて、医師会の協力を得て医療につながったケースがあった。 また、高齢者サロン等の様々な場面を通じて、かかりつけ医に関する周知をすることで、自らの健康に関心を持つことにつながった。
			3	がん対策	B	がん検診の実施 予防に関する普及・啓発 禁煙支援	新型コロナウイルス感染症の影響で、減少していた受診者数は少しずつ戻りつつある。また、禁煙外来の治療費の一部補助については引き続き実施しており、治療薬不足のため実施数については伸び悩んでいるものの成功率は高く、市民の健康づくりを後押しすることができた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
KSF	健康教育・健康相談の実施	36回（R1）	15回（R2）	13回（R3）				継続	
KSF	普及啓発回数	2回（R1）	3回（R2）	12回（R3）				10回（R7）	
KSF	肺がん検診、大腸がん検診、胃がん検診、乳がん検診、子宮頸がん検診	32.4%、28.0%、2.7%、11.2%、16.3%（H30）	31.0%、25.2%、2.7%、10.7%、17.9%（R1）	14.5%、11.7%、1.8%、5.0%、8.9%（R2）				50.0%、50.0%、13.3%、20.0%、17.7%（R7）	令和２年度から受診率の算出方法の変更あり。

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	かかりつけ医を持っている人の割合	61.4%（R2）	—	—				71.1%（R7）

課題及び次年度の方向性

昨年同様コロナ禍の影響もあり、健康相談の機会の減少傾向が続いているので、継続した普及啓発が必要。また、健康に関する情報が広く普及できるようICT等を活用し、必要としている人へ支援ができるよう手法を引き続き検討していく。
集団検診の受診者数増加を目的としてＷＥＢ予約を導入し、２４時間予約受付や希望日時を選べるようにすることで、検診を受診しやすい環境を整える。

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる	関係課	人権・市民相談課、子ども未来応援センター、福祉政策課、高齢者福祉課、障がい福祉課、健康増進センター、学校教育課、教育相談室
No.	**基本施策**	**進捗**	**No.**	**取組**	**進捗**	**具体的な取組**		**R4年度の成果及び効果（見込）**	
4	こころの健康の向上	3	1	こころの健康意識の向上	B	こころの健康についての普及・啓発 健康相談（こころの相談含む）の実施 早期発見・早期治療への取り組み		学齢期、成人期、子育て世代期、高齢期それぞれを対象とした事業等を通じて、各ライフステージにおけるこころの健康に関する普及啓発活動に努めた。 講座「ネット依存について 学ぼう～学齢期・青年期におけるネットとの上手な付き合い方とは？～」を実施し普及啓発を図り、、依存症の子どもに対して家族が対応方法について学ぶ機会となった。医師による「こころの健康相談」を実施し、医師のみたてから、医療へのつなぎや家族対応について助言をもらうことで、今後の適切な対応へつなげることができた。	

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	健康相談（こころの相談含む）の実施	104回（R1）	53回（R2）	101回（R3）				継続（R7）

No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	自殺予防対策	B	自殺の問題に関する理解の促進と取組の推進 自殺の背景となる要因の軽減のための取り組みの推進 自殺の原因、背景に対応した支援体制等の整備	経済的理由や介護・子育てによる悩みなど内容に応じ相談を受けるほか、複合的な悩みを抱える人に対しては各課・関係機関が連携を図り、医師やケースワーカーによる相談支援を実施し、悩みの軽減につながった。 若年層向けの対策として、自殺予防のための普及啓発グッズを二十歳式で配布したことで、若年層向けの自殺予防の啓発につながった。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	自殺率を平成27年比30%以上減少	16人（R1）	20人（R2）	18人（R3）				13人以下（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	相談できる人や場所がない人の割合	29.5%（R2）	—	—				21.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

令和3年の自殺者は18人と前年と比較し減少した。しかし、今年度は医師による「こころの健康相談」の件数は前年度と比較すると増加しており、内容としてはこころの面での不調をきたしている相談も多くみられる。
若年層の自殺予防対策については、十分に事業実施ができていない現状があるため、次年度以降は、若年層対策も含めた事業の展開をしていく。また、それに合わせてすべての市民を対象に、教育・啓発の推進、相談・支援体制の整備の充実、地域で安心して暮らせる環境整備を図っていく。

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる	関係課	保育課、子ども未来応援センター、みずほ学園、高齢者福祉課、障がい福祉課、健康増進センター、学校教育課、学校給食センター

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
5	歯と口の健康づくり	3	1	年齢に応じた口腔ケアの普及啓発	B	歯科口腔教室の実施 オーラルフレイルの普及啓発 歯科口腔に関する情報提供 8020運動などの推進	感染対策を講じつつ、乳幼児から高齢者を対象とした歯科口腔教室等の事業を実施し、各ライフステージにおいて、口腔ケアの普及啓発につながった。また、６月に中央図書館で実施した食育展示会において、歯科口腔に関するブースを設け、市民に向け広く情報提供を行うことができた。 フレイルチェック測定会では、参加者に対しオーラルフレイルについて普及啓発することができた。
			2	歯科健診受診を促進する環境づくり	B	歯科健診受診の普及啓発 歯科健診の実施	節目年齢の方に検診の案内を個別に送付したことにより、前年度に続き受診者数は微増した。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	歯科・口腔教室の実施回数	40回（R1）	5回（R2）	35回（R3）				45回（R7）
KSF	成人歯科健診受診者数	301人（R1）	312人（R2）	318人（R3）				530人（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	何でも噛んで食べることができる人の割合	77.0%（R2）	—	—				82.8%（R7）

課題及び次年度の方向性

歯科健診については受診者数が伸び悩んでいるため、効果的な受診勧奨策について検討していく必要がある。
感染対策を講じ縮小しつつも事業を再開しているので、継続して関連団体と協力しコロナ禍でも歯と口の健康づくりができるよう啓発していく。
また、フレイルチェック測定会においては、引き続きフレイルサポーターと連携しながら、オーラルフレイルについての普及啓発を進めていく。

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる	関係課	保険年金課、子ども未来応援センター、高齢者福祉課、健康増進センター、公民館
No.	**基本施策**	**進捗**	**No.**	**取組**	**進捗**	**具体的な取組**		**R4年度の成果及び効果（見込）**	
6	健康を支える環境整備	4	1	医師会等職能団体との連携強化	B	医療情報の提供手法・媒体・回数の改善・実施		新型コロナウイルス感染症に関連して、ワクチン接種や感染予防について医師会と連携を図ることで、スムーズに接種がすすんだ。また、医療情報について、ホームページや広報で随時周知し、普及啓発につながった。	

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	医療情報の提供機会の充実	実施	実施	実施				継続

2	町会等地域団体との連携強化	B	地域健康相談の実施 地域関係団体とのネットワーク強化	コロナ禍において出張地域健康相談については従来の小売店での開催ではなく中央図書館や市民総合体育館にて感染対策を講じつつ実施し、健康に関する普及啓発につながった。また、地域関係団体から成る健康づくり審議会を1回実施し、関係団体間の交流や意見交換の場を創出することができた。 また、今年度は3年ぶりに市民健康まつりを開催し、地域団体とともに市民に対し健康づくりに関する普及啓発を行うことができた。				

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	関係団体との会議の開催	30回／年（R1）	9回／年（R2）	18回／年（R3）				36回／年（R7）

3	感染症対策の充実	A	予防接種事業の実施 一般感染症予防の普及啓発 備蓄品の管理	新型コロナウイルス感染症の予防対策を実施することで、他の感染症のまん延防止につながっている。また、予防接種への関心をもつ人が増えたことにより、R4年度も目標値である95%以上を達成できた。				

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	予防接種接種率の向上	ＭＲワクチン１期 89.3%、2期 90.2%（R1）	ＭＲワクチン１期 102.0%、2期 95.5%（R2）	ＭＲワクチン１期 95.6%、2期 95.7%（R3）				どちらも95%以上（R7）

4	国民健康保険・後期高齢者医療保険制度の安定的な運営	A	医療費の適正化に向けたレセプトチェック ジェネリック医薬品に切り替えた場合の差額通知発送	目標値である80%を達成したことにより、医療費の削減が見込め、制度の安定的な運営を推進できた。				

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	ジェネリック医薬品の使用割合	77%（R1）	80.5%(R2)	80.3%(R3)				80%（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	医療施設の情報が少ないと感じる人の割合	16.5%（R2）	—	—				12.4%（R7）

課題及び次年度の方向性

関係団体との連携については今後も継続して実施していく。
新型コロナウイルス感染症の影響もあり、健康についての関心が高まっている。今後も健康に関する情報が広く市民に繋がるよう、広報やホームページだけでなく、プッシュ通知などICTを活用した普及啓発を継続する。
紙ベースでないと情報を得ることができない市民と、ホームページから情報を得ることができる市民とで格差が生じてしまう。紙では情報量に限界はあるものの、少ないスペースで分かりやすい情報標記の工夫が必要となる。

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	11	スポーツで元気になる	関係課	文化・スポーツ振興課
No.	**基本施策**	**進捗**	**No.**	**取組**	**進捗**	**具体的な取組**		**R4年度の成果及び効果（見込）**	
1	幼児からスポーツに親しむ環境整備	5	1	親子で参加できるスポーツ機会の充実	A	市内スポーツ施設での親子向けイベントの充実 推進のための啓発活動		市民総合体育館指定管理者の自主事業(フットサル、セパタクロー、HIPHOP、キッズジャズ、スポーツチャレンジ）やスポーツ協会主催のスポーツフェスティバルなど様々な事業に取り組み、機会充実を図れた。	

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	子ども～未成年向け教室数 （市民総合体育館指定管理者自主事業）	６事業（R元）	８事業(R2)	7事業(R3)				7事業 （R7）

2	子ども達がスポーツできる場所の充実	B	屋外スポーツ施設の整備機能拡充、安心安全対応の検討 学校体育施設開放事業充実の検討 近隣自治体、民間施設等の有効活用 都市公園等でのスポーツ活動の推進	学校プール開放の実施により、スポーツできる場所の充実を図ることが出来た。運動公園維持管理業務委託を実施することにより、常に整備された安心してプレーし易い状態を維持することができ、利用者の増加につながった。また、スポーツできる場所の充実を図るため富士見ガーデンビーチ跡地活用について検討を行った。	

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	県スポーツ少年団登録団体数	15団体（R元）	１１団体（R3）	１１団体（R4）				16団体

3	東京2020大会レガシーによる学校教育との連携	A	学校授業等での競技体験等	学校と連携し、パラリンピアンによる車いすハンドボール、ボッチャ体験、セルビア共和国に関する授業を計４回開催し、障がい者スポーツや国際理解及び学校との連携を深めることができた。	

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	学校における授業・行事の実施校	3校（R元）	４校（R2）	４校（R4）				４校（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	子どもがスポーツを好きという割合	63.4%（H27）	53.0%(R2)	53.0%(R2)				70.0%(R7)

課題及び次年度の方向性

・子ども向けの教室は多く実施することが出来たが、親子向け（未就学児から小学生低学年まで）の教室の開催について検討が必要である。
・スポーツできる場所の提供は出来たが、県スポーツ少年団登録団体数増えておらず、スポーツ少年団の周知及び登録の推奨に取り組んでいく。
・連携している学校が同じところに偏っているため、市内の全学校で障がい者スポーツや国際理解を図れるように各学校と連携を深めていく必要がある。

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	11	スポーツで元気になる	関係課	文化・スポーツ振興課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	働く世代へのスポーツの機会の提供	4	1	働く世代に対する啓発活動	B	広報「富士見」での啓発や健康セミナー等の開催 スポーツ健康イベントの開催	ヘルシーウォーク大会やスポーツフェスティバル、市民健康増進スポーツ大会、ヨガ体験教室を土日や夜間に開催することなど、働く世代が参加しやすい取り組みを実施することができ、コロナの影響はあるが、イベントへの参加者数も回復傾向となった。
			2	働く世代がスポーツしやすい環境づくり	A	屋外スポーツ施設の整備機能拡充、安心安全対応の検討 新たな夜間スポーツ施設の整備の検討 個人利用、多目的施設の充実	スポーツへの意識を変えるための啓発活動について検討を行った。運動公園維持管理業務委託を実施することにより、常に整備された状態を維持することができ、利用者の増加につながった。また、スポーツ施設の環境整備に向け富士見ガーデンビーチ跡地活用について検討を行った。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	市民健康増進スポーツ大会の参加者数	5,771人（R元）	1,948人（R2）大会一部中止	2,657人（R3）大会一部中止				6,000人（R7）
KSF	運動公園の利用人数	55,666人（R元）	38,316人（R2）	60,054人（R3）				57,000人（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	20～59歳の週1回以上スポーツをする人の割合	22.4%（H27）	33.9%（R2）	33.9%（R2）				30.0%(R7)

課題及び次年度の方向性

・参加しやすい環境をつくる必要があり、競技体験、健康づくり等様々な内容を幅広い日程、会場設定等できるように工夫していく。
・施設面においては、数的、機能面共に不足していることが課題となる。特に屋外スポーツ施設が近隣自治体と比べて少なく、屋外スポーツ施設の拡充について検討を進めていく。

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	11	スポーツで元気になる	関係課	文化・スポーツ振興課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	高齢者に合わせたスポーツ機会の充実	4	1	健康・体力づくりの活動機会の充実	A	医療機関・大学等の連携によるプログラムの開発 スポーツ健康イベントの開催 近隣自治体、民間施設等の有効活用	健康増進センターでは、東京大学高齢者社会総合研究機構によるプログラムを用いて、「フレイルチェック測定会」を開催したほか、文化・スポーツ振興課及び富士見市スポーツ推進委員連絡協議会が共催する「市制施行50周年記念ふじみヘルシーウォーク大会」を3年ぶりに開催したことなど、健康づくりへの取組の一助となった。
			2	高齢者向けスポーツの充実	B	地域におけるスポーツ活動施設の機能拡充・整備検討 早朝から利用できるスポーツ活動施設の機能拡充や整備の検討 健康づくり交流施設の整備の検討	文化・スポーツ振興課及び富士見市スポーツ推進委員連絡協議会が共催する「市制施行５０周年記念ふじみヘルシーウォーク大会」を３年ぶりに開催したほか、健康増進センターでも運動を通した健康づくり教室等を展開した。
			3	地域に合わせたスポーツ機会の創出	B	スポーツ推進委員との協働による地域事業の実施 地域スポーツ事業の推進 地区体育祭の支援	針ケ谷小学校区地区体育祭では例年の実施内容から大きく変更するなど体験をメインとする体育祭を開催した。また、スポーツ推進委員による地区事業は（11小学校中）７小学校区でボッチャ、バトテニス等の体験会を開催するなど、市民が地域でスポーツに触れる機会を設けることが出来た。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	体力測定等の事業実施数	1回（R元）	3回（R2）	18回（R3）				2回(R7)
KSF	ラジオ体操教室の参加者数	142人（R元）	0人（R2）事業中止	68人（R3）				150人（R7）
KSF	スポーツ推進委員地区事業の参加人数	206人（R元）	0人（R2）事業中止	99人（R3）事業一部中止				230人（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	60歳の週1回以上スポーツをする人の割合	55.6%（H27）	42.7%（R2）	42.7%（R2）				60.0%(R7)

課題及び次年度の方向性

・新型コロナウイルス感染症により事業開催数が増えていないことが課題のため、新しい形でのスポーツ実施方法を検討していく。
・大学との連携は実現できているため、今後は医療機関、民間施設等との連携を検討していく。
・高齢者の健康づくりの関心がより高まると捉え、健康・体力づくり、高齢者スポーツの取組みを推進していく。
・地区体育祭、地区事業等で中止と判断した地区が多数のため、例年の実施方法にとらわれない開催方法を検討していく。

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	11	スポーツで元気になる	関係課	文化・スポーツ振興課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
4	障がいのある人がスポーツを楽しめる機会の充実	4	1	障がいのある人がスポーツを体験できる機会の充実	B	障がい者向けスポーツイベント・体験教室の開催 障がい者スポーツ活動の支援　等	東京２０２０大会による反響で、ボッチャへの関心が高まったことから、特別支援学校等へ、スポーツ推進委員を中心に対応を行った。また、障がいの有無を問わない競技であるボッチャの推進を図るため、ボッチャ体験教室やボッチャ指導者養成講座の実施など、機会の充実へ向けて取り組んだ。
			2	障がい者スポーツ環境の充実	B	スポーツ施設のバリアフリー化の充実と利用促進 障がい者スポーツ備品の充実	東京2020大会による反響で、ボッチャへの関心が高まったことから、継続的な障がい者スポーツ普及のあり方について検討を行ってきた。
			3	東京2020大会共生社会ホストタウン及びレガシーによる交流機会等の充実	A	競技体験教室や交流の開催（国際理解・文化等含む） 学校教育向けをはじめとしたプログラムの開発と実施	共生社会理解への講演会（３月予定）や学校と連携し、パラリンピアンを講師とした車いすハンドボール、車いすバスケットボール、特別支援学校へのボッチャ教室の開催することで障がい者スポーツの推進及び機会の充実を図ることができた。また、セルビア共和国に関する授業などを行った。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	障がいのある人もない人も楽しめる障がい者スポーツ体験教室の開催	２回（R元）	３回(R2)	２回(R3)				3回（R7）
KSF	市内スポーツ施設の障がい者スポーツの登録団体数	2団体（R元）	2団体（R２）	2団体（R３）				３団体（R7）
KSF	東京2020大会共生社会ホストタウン及びレガシーによる交流機会の回数	２回（R元）	5回（R2）	８回（R3）				３回（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	障がい者スポーツを体験したり見たことがある人の割合	—	67.4%（R2）	67.4%（R2）				40.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

・障がいのある人がスポーツを体験できる機会を増やしたため、参加しやすい体験会の工夫を検討していく。
・障がいの有無に関わらず、障がい者スポーツをみんなのものとして気軽に取り組めるよう、地域での普及や指導者の養成などに取り組んでいく。

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	12	スポーツにより交流が活性化する	関係課	文化・スポーツ振興課
No.	**基本施策**	**進捗**	**No.**	**取組**	**進捗**	**具体的な取組**		**R4年度の成果及び効果（見込）**	
1	「する」（機会の充実）	3	1	一流選手等から学ぶ機会の創出	B	体験教室等の実施 子ども☆スポーツ大学の実施 実施周知の充実 オリパラ・ホストタウンに関連する競技体験機会やイベントの開催（国際理解文化等含む）		子どもスポーツ大学において、オリンピックメダリストや元日本代表選手、現役ボッチャ選手等の一流選手を講師として招き講義を開催。また、パラリンピックメダリストによる障がい者スポーツ体験会を開催するなど、子どもを中心にスポーツへの関心や憧れを持つ機会をつくれた。	

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	一流選手等を招いての教室・イベント等の実施事業数	7事業(R元)	0（R2） 事業中止	5事業（R3）				8事業(R7)

No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	好きな時に好きなスポーツを楽しめる環境整備	B	地域におけるスポーツ活動施設の設置、機能拡充の検討 学校体育施設の活用 多様なスポーツニーズへの対応	学校プール開放の実施により、スポーツ活動の場を提供することが出来た。また、スポーツ施設の環境整備に向け富士見ガーデンビーチ跡地活用について検討を行った。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	市民総合体育館スポーツジム利用人数	51,070人 （R元）	13,944人 （R2）	29,043人 （R3）				52,000人 （R7）

No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	同じスポーツをする仲間を探せる仕組み作り	B	市内活動団体、指導者等のデータベースの構築 スポーツ推進委員との協働によるイベント開催 地域スポーツ事業の推進	ヘルシーウォーク大会や地区事業、地区体育祭等の事業をスポーツ推進委員と共に開催することで、地域スポーツ活動の推進を図れた。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	スポーツ指導者養成講座の参加者数	86人 （H30）	0（R2） 事業中止	36人 （R3）				100人 （R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	スポーツをすることが「好き」という割合	33.6%（H27）	32.5%(R2)	32.5%(R2)				40.0% （R7）

課題及び次年度の方向性

・体験教室等の事業において、参加をしてくれる方の大多数が一定化する傾向ががあるため、周知等の情報提供を工夫し、スポーツをする機会の充実を図っていく。
・多様なスポーツニーズを把握し、地域におけるスポーツ活動施設のあり方を検討していく。

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	12	スポーツにより交流が活性化する	関係課	文化・スポーツ振興課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	「観る」（環境整備）	4	1	大会等誘致によるスポーツ活動・地域交流・シティセールスの充実	A	大会を実施してもらうための誘致活動を行う 大会を誘致するための新たな施設設置の検討 本市にゆかりのあるスポーツ選手や団体と連携したPR活動 オリパラホストタウンレガシーによる交流機会の推進	レスリング、ハンドボール、セパタクローの試合を誘致し、有観客でのトップレベルの試合を地域で観戦できる機会を提供し、市民は生で質の高い試合を観戦することにより、スポーツに親しむきっかけづくりになった。またＴリーグ等の大会誘致の検討を行った。
			2	スポーツを観戦できる環境の整備	B	大会を実施してもらうための誘致活動を行う 大会を誘致するための新たな施設設置の検討 本市にゆかりのあるスポーツ選手や団体と連携したPR活動 オリパラホストタウンレガシーによる交流機会の推進	レスリングマットを新たに設置したことで、メインアリーナ全面に３面のレスリングマットを敷くことが可能となり、全日本社会人レスリング選手権大会等の公式試合の誘致をするなど大会誘致に向けての環境整備を行った。

KSF

タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
全国大会規模の大会等の実施回数	4回(R元)	４回(R2)	７回（R3）				5回(R7)

KSF

タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
市民総合体育館等での応援イベント等の開催回数	1大会(R元)	０回(R2) オリパラ延期	1回(R3)				2大会 （R7）

KPI

タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
スポーツを会場等で観戦したことがある市民の割合	20.9%(H27)	18.3%(R2)	18.3% （R2）				25.0%(R7)

課題及び次年度の方向性

・スポーツへの興味・関心を持ってもらいたい、そのため身近な地域で試合を観る機会を充実させることは重要であるため、今後も一般利用に支障が出ない範囲で推進していく。
・主催団体の意向により、大会開催時に合わせた体験教室や参加者同士の交流を実施できなかったことが課題。今後も誘致活動を継続的に取り組んでいくとともに大会開催時に合わせた体験教室や参加者同士の交流、市のＰＲ機会の充実を図っていく。

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	12	スポーツにより交流が活性化する	関係課	文化・スポーツ振興課
No.	**基本施策**	**進捗**	**No.**	**取組**	**進捗**	**具体的な取組**		**R4年度の成果及び効果（見込）**	
3	「支える」（環境整備）	4	1	スポーツ団体等への活動支援	B	スポーツ団体との連携による初心者教室の開催 大会等の会場優先確保 富士見TOPサポーターのオリパラ後の活動充実と支援（国際理解・文化等を含む） 富士見スポーツボランティア創設等の活動及び企画・運営の場づくり		富士見TOPサポーターについては、富士見TOPサポーター2020⁺として、スポーツ、国際、文化を中心に、様々なイベントで活動していただいた。市におけるレガシーとして市民協働の一助となった。	

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	富士見TOPサポーターのイベント、大会等の活動人数	延230人（R元）	32人(R2) オリパラ延期	160人(R3)				延250人（R7）

2	競技スポーツ向上者への支援	A	激励金等の交付 広報等でのPR等 オリンピアン・パラリンピアン等トップアスリート等に接する機会の提供	奨励金の交付の申請は６１件あり競技スポーツ向上者への支援を行った。また交付式及び報告書を実施し、市内で活動しているアスリートを広報等で紹介する機会を提供できた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	激励金の交付件数	28回（R元）	3回(R2) 各種大会中止	50回(R3) 一部大会中止				30回（R7）

3	「レスリングのまち富士見市」の推進	B	体験教室等の実施（再掲） 各種競技大会の誘致 富士見レスリング週間の周知 日登美杯への支援	レスリングマットを新たに設置したことでメインアリーナ全面で３面のレスリングマットを敷くことが可能となり、全日本社会人レスリング選手権大会の公式試合を誘致した。また、3年ぶりに日登美杯を開催することで、子ども達へのレスリングの普及を図れた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	レスリングに興味のある市民の割合	20.9%	—	—				30.0%

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	スポーツに関するボランティア活動参加率	8.0%（H27）	8.0%（R2）	8.0%（R2）				10.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

・スポーツをしやすい環境を作ることが課題。そのために、競技スポーツ向上者への支援、富士見ＴＯＰサポーター２０２０⁺の活動の充実を図る等の取組をしていく。
・新型コロナウイルス感染症も収束しつつあり、奨励金の申請増加が見込まれるため、予算規模について見直す必要がある。